慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	社会学上に於ける同種意識説と模倣説との比較
Sub Title	
Author	田中, 一貞
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.81- 102
JaLC DOI	10.14991/001.19090201-0081
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ては特に主要のことなりとす而して我國の如く將來大に雄飛するが爲に或は公債募集の懸念ある國家に於ては其の償還は目下の急務にして之を遂行せんと欲せば勢ひ之を强制せざるを得ざるなり然れども余輩は敢て減債基金制度を以て國債償還の最良方法なりと云ふにあらず然れども此制度は所謂識者の嘲笑するが如き愚策にあらずして却て重大なる效用あるを信ずるなり。

社會學上に於ける同種意識說と模倣說との比較

田中一貞

近世の社會に關する諸科學が漸く心理學に接近し來れるは何人も否む能はざる事實にして隨て或意義に於ては社會的諸科學の基礎とも云ふべき社會學其者の如きも漸く其生物學的臭味を脫して其立脚點を心理學上に求むるに至れり。社會學の鼻祖オーギユスト、コムトは其有名なる「科學の段階」(ヒーラヤーオブサーエンセス)に於て數學を以て最も根本的なる科學となし次は天文學其次は物理學化學生物學社會學と云ふ順序になし、社會學を以て最後の科學にして且最も直接に生物學を基礎とするものなる事を主張せり。以來社會を以て直に一の生物となし、專ら生物學的原則を社會學に應用する事一般の流行となり、スペンサーの如きは「社會は一の動物なり」と公言し、シヤフレー、リヽエンフエルド等の諸學者は更に大膽に社會卽動物論を唱へ社會解剖學、社會病理學等の語をさへ見るに至れり。然れども此種の大膽なる學說

は近時漸く衰へ今や文字通りに之を信ずるものなく、會々之を唱ふるものあるも只社會の組織は比喩的に生物の構造に相似たりと云ふ位に止まるものゝ如し。彼現代に於ける最も社會卽動物說に近きレネ、ウオルムス氏の如きすら『動物と社會との間に存する類似點を否認するは不條理なれども去らばとて動物と社會とは全然同一なりとなすは極言するは是に劣らざる不條理の議論たり』とて其立脚點を明にしたり。而して近世の心理學的社會學者が社會卽動物論を排斥する理由種々ありと雖も其重なる箇條を擧ぐれば左の如し。

1. 社會を以て動物なりとする說は個人の心理的活動を無視し强て社會を一の模型に入れて社會の發展を律するに胎兒の發生と同樣なる規則を以てせんとし、遂に最も重大なる社會的現象たる言語宗敎等の如き直接に生物學に關係なきものを無視せざるべからざるに至る。

2. 社會若し動物ならば其運動及び進步は全く天然の規則にのみ支配せられ個人は全く社會に對して無力のものとなり、聖人君子偉人豪傑なるものゝ社會に及ぼす影響も只先天的に定まれる社會發展の過程の一部と見做さゞるを

得ざるに至る。此の如くして社會動物說は宿命說の如き不健全なる傾向を奬勵し社會に對する個人の公共心を薄弱ならしむ。

3. 社會を以て動物とすれば宗敎團體敎育團體經濟團體等のものは國家と云へる大動物中に住める寄生蟲なりと云はざるべからず。然れども斯る團體は必ずしも其範圍を一國家內に限るものにあらず、卽ち基督敎會の如き國家を超越して成立する團體は如何に見るべきか。佛國人にして天主敎を奉ずる人は佛國と云へる動物の一部なると同時に天主敎會と云へる他の動物の一部なるか、是れ決して眞正の動物にあり得ざる現象なり。

4. 動物は其生力の一部を割きて生殖をなす。而して社會も其一部を割きて殖民をなすこと動物の子を生むが如し。然れども動物の胎兒は必ず動物成育の規則を踏みて極めて單純なる細胞より順序を踏みて成長するものなり。然れども文明國の新殖民地は胎兒の如く其原始時代より社會進化の順序を繰り返へすものにあらず。卽ち今日の北米合衆國の如きは決して未開野蠻なる石器時代靑銅時代を經て今日の文明に進みたるものにあらず。始より

其母國と非常の大差なき文明的社會制度を有せり。

5 社會は明瞭なる意識を有する個人の集合にして決して無意識なる細胞の集合と同一視すべからず。

其他一々算へ來らば限りなき程の相違あるべく彼一たびは社會を以て一の動物なりと極言せしスペンサーすらも社會が動物なる理由を詳論したる後此兩者の間には重要なる差異あることを自白せざるを得ざりき。卽ち彼も亦、動物に在りては其各部相密着して一の具體的全體(コンクレート、ホール)をなし各部分の區別明瞭ならざれども社會の部分たる個人間の區別は甚だ明なることを云ひ、又動物には意識の中心たる腦隨われども社會に於ては意識は殆んど平等に各分子の占有する所たりと云ひ社會を以て生物以上(Super-organic)なりとするに至れり。

此の如く一般の傾向は社會動物説を否定するに至り千八百九十七年巴里に於て開かれたる萬國社會學會の大會に於て社會動物説は僅二人の贊成者ありしのみにて餘は悉く之に反對したり。而して同じく心理學的社會學を唱導する人々の間にありては多少其説に相違なきにあらずと雖も社會現象を以て重に心的のもの

のとなし、社會の進化は動物の進化の如く全然客觀的の力に依るものにあらずして人と人と心的接觸をなし其間に種々の交渉を生ずるが爲に起る所の結果なりとするに於ては皆相似たり。只心理學其者と社會學との相違する點は心理學は專ら個人意識內の現象を取扱ふものなれども社會學は個人意識を既に成り立てるものと見做し、其各個人間の意識は互に如何に働き掛け、如何なる結果を生ずるものなるやを研究するものにして、云はゞ個人意識間の學問なりと云ふにあり。

但心理的社會學者にてもボルドー大學のデュルケーム教授の如きは個人意識を以て社會現象の根本となすことに反對し、別に個人意識以外に社會心意なるものの存在し之が却て個人意識に反影を與ふるものなりと論じ稍見地を異にせり。然れども個人を離れて社會心意が存立し得べからざるは明なる事實にして一見個人に超越して存在するが如く見ゆる社會心意なるものは寧ろ個人心意交渉の結果にして、其結果が更に原因となりて個人心意に影響を及ぼすものに過ぎず。故に社會學に於ては先づ個人的心意の交渉を研究すること最も重要なりと云はざるべからず。

米國社會學の大家ギッテンクス氏は主觀客觀の兩面より社會を研究し、兩三年前物故せる佛國コレージド、フランスの教授タールド氏は心理的社會學を唱導し稍意見を異にせりと雖も共に個人心意の交渉を以て最も根本的なる主觀的社會事實となせる人なるが、只兩氏の主觀說に於て少しく意見を異にするは其心意的交渉其者の中にても如何なるものは最も單純にして然かも社會的なる形容詞を冠し得べきやと云ふ點にあり。而してギッデングス氏は同種意識(Consciousness of Kind)を以て最も根本的なる社會現象となし凡て其他の心的狀態にして社會的なるものは皆其同種意識が他の觀念、欲望、情慾等と相結び付きたるものなりとせり。而してタールド氏は模倣を以て根本的社會的事實となせるは人の知る所なり。今先づギッデンクス氏の說を略述せんに、同種意識なるものは有機的同情、類似の知覺、意識的同情、愛情及び承認に對する慾望を含める其愉快なる心的情態なり。(That pleasurable state of mind which includes organic sympathy, the perception of resemblance, conscious or reflective sympathy, affection, and the desire for recognition: Inductive Sociology, page 99.)

然らばその(1)有機的同情なるものは如何なるものなるものか、屢〻相接觸する個人が未だ相互間の異同を認知せざる前に彼等の心中には刺戟に對する反應の異同卽ち感覺の異同なるもの起り又自身に依りて覺醒せられたる感覺と他の人間によりて覺醒せられたる感覺との間にも異同あり、且其上各自の心中には互に誘引し又は反撥する所の朦朧たる感情及快不快の同じく朦朧たる感情起るべし。而して其類似せる個人の類似せる感覺及び其朧朦たる誘引愉快の感情を總稱して有機的同情と云ふ。(2)類似の知覺は讀んで字の如く類似せる個人が相接觸するや始は只無意識的に相誘引し朦朧たる快感を感ずと雖も益〻相近づくに隨ひ更に其類似を知覺するに至るを指す。一般に類似の知覺よりも差異の知覺は先きに現はるゝものにして人が相識の間柄となるまでには互に嚴密に差異點を觀察するものにして其差異の知覺は類似の知覺の發達するに連れ漸く減少するものなり。(3)意識的同情とは類似の知覺が更に有機的同情の上に反應して之を智力的或は回想的の同情に發展せしむるを云ふ。換言すれば他人と自己との間に存する類似の明瞭なる認識によりて覺醒せられたる同情に外ならず。(4)類似の

知覺及意識的同情は一般に進んで相互の愛情となるものなり。換言すれば互に類似して等しき觀念趣味を有する人々は一般に共通の點少き人々若くは全く共通の點なき人々よりも互に相愛すること強きものなり。(5)若し吾人が自己の相識の人に對し同情と愛情を有し且つ其人が心意併に性格に於て類似することを知覺する時は吾人は自然に其人が自己に對し關心する所あるを表明せられんことを要求し、且つ其人が其類似の點を認識し同情相愛の念を示さんことを期待するものなり。ギッデンクス氏は此心的狀態を指して承認に對する慾望と呼べり。此の如くギッデングス氏の所謂同種意識なるものは五個の意識的樣式より成れりと雖も是等は決して互に獨立せるものにあらず互に相密着して全く單一なるが如く見え、其狀恰も網膜上に於ける人物景色等の影像が單一に見ゆるとに似たり。而して人が此心的狀態に在る時は自ら一種の愉快を感じ之を維持發達せしめんとの感を起すものなり。且つ其快感は愉快なる遊戯をなし又は面白き芝居を見物する時に感ずるものと同じく別に實際上の利害を眼中に置くことなく專ら同種意識其者の價値を感じ之を樂むものなり。之れキッデングス氏の同種意

識に關する説明の大體なり。既に同種意識と云ふ、必ずや互に相類似せるものゝ間に起る所のものならざるべからず。而して此同種意識の基礎となるべき類似に二種あり。一は血族上の類似にして家族の如き近き血緣の間に於ては同種意識最も強く國民民族人種と漸々血緣の遠くなるに隨て一般に同種意識は薄弱となり、遂に人類一般となりては最も微弱となるものなり。次は精神上の類似にしてギッデングス氏の類似心意(like-mindedness)と稱するもの即ち思想感情の一致なり。此一致は其腦髓の組織が人々相類似するが爲に起るものにして必竟同一の刺戟に對する類似の反應なり。例へば二人若くは二人以上の小兒等が共に赤色の物を好むとすれば是等の小兒は同じ刺戟に對して同一の反應をなしたるものと云ふべく隨て彼等は此點に於て類似心意(ライクマインド)なりと云ふ事を得べし。而して最も個人間に同種意識を起し易きは此種の類似なるが如し。

以上、ギッデングス氏が社會の根本的事實なりとする所の同意識を説明したり。されば是より更にタールド氏が社會の根本的事實なりと極力主張する所の模倣(imitation)なるものを論述せんとす。但ダールド氏の社會學は彼れの一般の科學に對する

原則を基礎とせるものなれば彼の模倣論を知らんと欲すれば彼の有名なる科學の三要素なるものを知らざるべからず。第一、人は長年月の經驗により、宇宙の諸現象が其の變化の狀態千種萬樣にして殆んど捕捉すべからざるが如くなるも猶其間に整然たる秩序ありて無限の反覆(Repetition)をなすものなるを覺るに至る。例へば時候に四季の循環あり人生に出生成熟老死の順序あるが如き是なり。故に單獨なる一事一物のみにては科學なるものあることなく科學ある處には必ず或度なで普遍的なる活動あり故に科學は一個物一個人を考ふるにも「無限の反覆」と云ふことを豫想するものなり。

Science is the coördination of phenomena regarded from the side of their repetitions.

Tarde: Social Laws, page 3.

然れども一致の點のみを見るを以て科學の能事終れりとすべからず、彼は又變化差別の方面をも見ざるべからず。去りながら其差別せられたるものは矢張り單獨的なるべからず、必ず或一定の同種の群類にして無限の反覆をなすものなるを要す。第二、科學研究は平等反覆等の問題のみにて滿足すべからず、諸種の反覆の

潮流が互に對立し抗抵する方面、卽ち衝突(opposition)の法則を考へ勢力平準の理をも研究せざるべからず。第三、此反覆と衝突の外更に研究すべきものあり、是卽ち現象の順應(adaptation)にして學者は常に反覆と衝突に依りて滿たされたる世界に、如何にして此の如き調和が生じ來れるやを知るを要す。例へば生物學に於ては、生物が其父母の性質を受けて繁殖するは卽ち生物學上の反覆にして、之が爲に生存競爭の行はるゝは其衝突なり、而して衝突の結果各生物は其境遇に適應し漸々進化するは卽ち順應の理に外ならず。此三要素の中最も重要なるは反覆にして次は順應なり。第二の衝突は稍一時的のものにして時を經るに隨ひ消滅すべきものとす。

タールド氏の說にては、社會學にて取扱ふべき現象の反覆は模倣にして、模倣とは一の腦髓が他の腦髓に其觀念意思感情を反射せしむる所の心的印象なり。

C'est l'impression mentale à distance par laquelle un cerveau reflète en un autre cerveau ses idées, ses volontés, même ses manières de sentir.

Tarde: Etudes de Psychologie Sociale, page 45.

凡ての社會的關係には此模倣の含蓄せられざる所なく隨て模倣は最も普遍的なる社會現象なり、試に普通の社會的關係を分類すれば言語的關係、宗教的關係、教育的關係、政治的關係、經濟的關係、藝術的關係等とすることを得べく、是等は結局說くものと說かるゝものとの關係、教ゆるものと教へらるゝものとの關係、治者と被治者との關係、權利者と義務者との關係、生產者と消費者若くは賣買者の關係、製作者と之を賞美する人との關係にして何れも人心の能動的の活動と受動的の活動の關係にして腦髓と腦髓との交涉にあらざるなきを見るべし。而して各個人は其活動を他人に傳達し又他人より其活動を意識的併に無意識的に受くる所の性質あるものにして此性質あるが故に個人的精神の學問たる心理學は遂に社會學てふ一種の集合心理學を生ずるを得るなり。故に此授受の心的活動卽ち模倣は社會の根本的關係にして、母子養育の關係の如き夫婦生殖の關係の如きは寧ろ生物學的關係なれば純然たる社會的關係となすべからず。結局人は元來模倣的の動物にして凡て舊來の偏見の妨礙なくば凡ての暗示によりて模倣をなすものにして催眠術に罹れる人の如し。催眠術に罹れる人は只暗示のまに〳〵働くものにして馬を指して鹿なりと云へば鹿に見え、白を指して黑なりと告ぐれば黑に見ゆ。吾人の神經組織も元來此の如きものにして皆他の反對の原因なくば人の暗示に盲從する傾向あるものとす。

La société, c'est l'imitation, et l'imitation, c'est une espèce de somnanbulisme.

Tarde: Lois de l'imitation, page 95.

（社會は模倣なり、模倣は催眠術の一種なり）

模倣は先にも云へるが如く皆傳播性を有するものにしてタールド氏は之を光線、音波、生物と同じく一人より二人、二人より四人、四人より八人と云ふが如く等比級數を以て進行する傾向あるものなることを云へり。而して模倣の進行するや啻に個人間にのみ潮流をなすのみならず、廣く民族國家の間にも無限の反覆を行ふものにして希臘の文明は羅馬に入り羅馬の文明は今日も猶人心を浸し居れり、支那文明の潮流は朝鮮に入り進んで日本に來れり。要するに模倣と云へる社會的潮流は無限に汎濫する傾向あるものなれども實際上模倣は常に一人より他人に、一國民より他國民に傳はるに當りては多少變化を被るものにして、其狀恰も父母

の性質が子孫に遺傳するに當りて多少の變化を受けざるものなきの類なり。言語宗教美術等のもの皆然らざるはなし。故にタールド氏は自ら模倣の屈典律なるものを立てたり。此の如く模倣は其進行の途中に於て益々分岐するものなれば其潮流は互に相抵觸することあるを免れず。是卽ち社會現象の衝突なり。其西洋文明が始めて日本に入り來りし當時日本古來の文明との衝突甚しく洋學者は非常に迫害せられたるが如き是なり。個人に於ても目新らしき風俗を見聞きなれざる說を聞く時は一種奇異の感に打たれ疑惑の念を起すべし、是卽ち舊來の經驗と新なる經驗との心的衝突なりと云はざるべからず。世間には千種萬樣の潮流が人間の精神を通過しつゝあることなれば、吾人の心中は常に是等の潮流の衝突を以て盈たされ居ることなるべし。然れども是等の衝突は決して永續的のものにあらず。若し衝突する潮流が全く氷炭相容れざるが如きものならば其中强力なる潮流は微力なる潮流を壓倒すべく、若し相調和すべき性質のものならば相合して爰に模倣の順應なるものを生じ新なる潮流となりて其進動を繼續すべし。此模倣の順應卽ち廣義に於けるインヴェンションには意識的に諸種の潮流

を集めて比較計算して後に生ずるものと、諸種の潮流が雜然として腦中に集まり考ふるともなし考へたる結果突然として自らも豫期せざりしが如き新なる想像を生ずるものとあり。

此の如く論じ來ればタールド氏の所謂模倣なるものは極めて廣濶なる意義を有するものにして個人が他の個人に一の暗示を與へ其腦髓に或物を生ずる凡ての過程を指すものなるや明なり。去れば此模倣と云へる事實と、ギッデングス氏の同種意識なるものとは如何なる關係を有するものなるやを考究するは社會學上極めて有益の事にして且興味あることなるべし。要するにタールド氏の模倣說は實に重要なる社會心理學上の一大新說にして、其所謂模倣なるものは果して社會の最も單純にして最も根本的なる事實なるや否やの問題を別にして、兎に角社會に於ける人間の活動の大部分、否本能的の活動を除きて殆んど總ての部分は模倣若くは模倣の結果なること疑ふべからず。故に模倣は極めて普遍的なる社會現象たるや疑なくギッデングス氏の如きは全部之に同意すること能はざりしも、其著歸納的社會學に於ては同化の深因と題して如何なる自然的の現象も其根元

的類似と其衝突と其模倣卽ち順應の三方面を有せざるはなく隨て社會にも此三方面なかるべからざるを說きたり。(Giddings: Inductive Sociology, page 103-107.) 又タルード氏も其社會心理の研究に於てギッデングス氏の社會學を批評し特に根本的社會事實に關しては深き注意を拂ひ斷乎として「ギッデングス氏の所謂同種意識とは寧ろ社會的同情にあらずや」と說破せられ、吾人をして同種意識說と模倣說との間に橫はる契合點に關し多少の光明を認むるを得せしめたり。(Tarde: Etudes de Psychology Sociale, page 291.) 謂ふにギッデングス氏は自ら同種意識なる新熟語を製し之を以て社會の根本的事實とせるは是亦社會學上の一大創見たるや疑なしと雖も、其同種意識の要素たる有機同情、類似の知覺、意識的同情、愛情及承認に對する慾望の內、有機同情、意識的同情及愛情なるものは純然たる同情にしてギッデングス氏も同種意識の感情的方面を總稱するに同情なる文字を以てせられたり。(Inductive Sociology, page 105.) 而して其承認に對する慾望の如きは同情の在る所には殆んど必ず生起する心的狀態なれども社會として必要なるものは此方面に非ずし專ら同情の方面なり。何となれば自己が他人に對して同情を有する時は其事

實を先方に承認せしめん事を欲するは自然なれども此の如きは同情其者の自然的結果に過ぎず。卽ち社會的關係の萌芽が旣に成立したる後に來る所の一現象に過ぎざればなり。又類似の知覺なるものは多くの場合に於て同情を引起す所の一大原因にして一の簇集を形成する個人が互に大に種類を異にするか又は勢力に差異ある時は其關係は自ら反撥的になり易く、之に反し其間に種類性質の類似點ある時は同情なるもの起り續いて交通協働等のものを生じ社會を形成することを得べく、隨て多くの場合に於ては類似と云ふ事實と同情と云ふ事實は相結合するものにして、同胞なり同國人なり同業者なりなどの觀念は自ら同情を引くものなるは吾人の常に自ら經驗する所なり。彼「雪の日やあれも人の子樽拾ひ」と云ふが如きは卽ち我も人の子なり彼も亦人の子にあらずやと云ひ其彼我同種なることを歌ひて自ら人の同情を喚起したるものにあらざるか。此の如く同種と云ふ事は同情に對し深き關係を有することは疑ふべからざる事實なれども、爰に大に考ふべきは最も單純なるべき社會的關係の萌芽は同情、類似の知覺、承認の慾望と云ふが如き個々の心的狀態を相合したる混合體なりやと云ふ事なり。如何

にも類似せるものゝ間には類似せざるものゝ間よりも社會的關係を生じ易きは前述の如くなれども其類似せる者等が互に其類似を知覺することが其必要條件なりや。余は實に人が必ずしも之を知覺せずとも同情なるものゝ存在する時は社會の根本的關係は成立するものなることを信ぜざるを得ず。萬一互に同種なることを知覺しても其間に少しも同情の起らざるが如き事あらば此人々は互に社會的に沒交渉なること自明の理なり。故にたとひ同情なるものは事實上殆んど常に類似の知覺に伴はるゝものなりと假定するも社會的交渉の根本に於て必要なるは同情にして、類似の知覺は補助的のものなりと云ふべく、況んや人が相互の類似を知覺するは多くの場合に於て同情の力によりて互に交際をなして後の事實なるに於てをや。去れば余をして忌憚なく所信を公言せしめばギッデングス氏は須らく同情を以て根本的なる社會的事實となし、類似の知覺及承認の慾望をば之に附隨して研究すべかりしなり。強て是等の半ば從屬的なる知覺慾望を加へて最も單純なるべき根本的現象を故らに復雜にするは科學研究上、策の得たるものにあらざるべし。其上ギッデングス氏は類似の多き所には同情も之に比

例して多きが如く論ぜらるれども、事實上强者が弱者を助け富者が貧者を憐む等差異の知覺が却て同情を惹起すことあるを以て見れば類似と同情は然かく精密なる數量的關係を有するものにあらざるや明なり。凡そ互に同情なき程非社會的なる現象はなかるべし、或人が或團體に入りて身體は其團體の人と交はるも其精神に於て全然同情なくば此人は物理的に此團體に入れるものにして決して社會的に中間入りせるものにあらず。斯る人は久しからずして其團體に嫌はれ追放せらるゝか或は自ら團體を去りて他の同情ある團体に入ることなるべし。故に同情こそは社會形成上、根本的に缺くべからざるを知るべし。

然らば同情と模倣とは如何なる關係を有するものなるや。同情も亦人の悲みを悲み人の喜びを喜ぶ所の一種の模倣にして結局一人の心と他の一人若くは數人との心意が互に交感して類似の反應を起し意氣相投合し互に一種の快感愛情を感ずるものなり。卽ちタールド氏が模倣に與へたる定義に「模倣とは一の腦髓が他の腦髓に其觀念意思感情を反射せしむる所の心的印象なり」と云へるは又同情の意義の殆んど全部を覆ふものにして、タールド氏自らもギッデングス氏の同種

意識を許するに當りて此事實を表明せられ、只此兩者の相違は一は主觀的にして一は客觀的なるにあることを示されたり。

A mon avis, c'est un rapport inter-psychique qui, suivant qu'on le regarde par sa face objective (scientifiquement plus maniable et plus nette) ou par sa face subjective, apparaît comme imitation ou comme sympathie innée, suggestibilité, sociabilité.

Tarde: Etudes de psychology Sociale, p. 291.

同情は獨りタールド氏の所謂模倣と同じく相互的の心的印象なるのみならず、同情を有する人々の間には稍復雜なる動作の互に模倣せられ易きは吾人の日常實見する所なり。此の如く論じ來れば一見全く相違せるが如き同情と模倣なるものは漸く接近し來り、其間には少くとも密接なる關係の存在するを知るべし。然り此兩者は密接なる關係を有せり、去れど直に之を以て兩者は同一物にして只觀察點の異なるのみと斷言し得べからざるものあり。何となれば同情は模倣の一種なりと云ふ事を許すとも世には全然同情を含まざる模倣の存在するを以てなり。ギッデングス氏が其著「社會學原理」に於て擧げたる一例の如くキャットバードは能く「こまどり」の音を模倣すれども是決して社會的目的を以てするものにもあらず、又之に依りて何等社會的關係を生ずるものにあらず。故に如何なる模倣も悉く社會的事實なりと云ふべからず。戰士相鬪ひ敵が刀をふり翳したる時自己も之に擬して刀を擧げたる時の如きは之れ全く非社會的、反社會的事實なれば苟も模倣が社會的にならんとせば、必ず先づ互に同情的となる事を要す。故に社會として必要なるは模倣よりも先づ同情なるを知るべし。

之を要するに同種意識、同情、模倣の三者は互に密接なる關係を有し中にも同情は多くの場合に於て他の二者に共通して其間の連絡をなすものにして社會學上最も重要なる事實の一なるや疑ふべからず。去れば類似の存する所には同情多く同情ある所には模倣多く且類似は自ら原因となりて同情を生じ同情は原因となりて模倣を生じ模倣は原因となりて更に類似を生ずる事多く、大體より觀じ來れば此三者は極めて相近きものたり。而して米國の大家ギッデングス氏と佛國の預學タールド氏が時を同くして直に此本疊を衝き社會的關係の眞諦を明らめんとせられしは十九世紀末の學術界に於ける一大事實にして是まで異說區々殆ん

ど捕捉するに由なかりし社會學も是が爲に漸く統一の時期に近づくことを得たるは斯學の爲に偉大なる進歩と云はざるを得ず。

爰に聊か根本的なる社會的事實に關する兩大家の學說を比較し少しく鄙見を加へたり。然れども余豈敢て自ら微々たる此小論文を以てして堂々たる世界的の二大學說を評し盡くせりと云はんや。更に研究を積み重ねて江湖の敎を請はんとす。

時評

○社會主義の取締

竹葉

社會主義者なりと目せらるゝ某氏莞爾として笑語すらく、吾家は戸締を要せず、警吏常に之を守れればなりと。他の某氏憔然として嘆じて曰く、我が再び獄門をくゞるの日は恐らく我が命を絶つの時ならん。吾人は初度の幽囚と共に未だ曾て覺えざる病根を得たりと。彼等の語一々之を信ずること能はずと雖も、然も吾が當局者が殆ど想像し得べからざる周到なる注意を彼の徒に向つて注ぎつゝあるは事實なり。頃日芝署の一警吏義塾を勸うて某學生の性質素行を糺せるあり、其何が爲めなるやを問へば、白面黃嘴の一生が某地方紙閲に投じたる一論文、些か社會主義的臭味を帶べるの故を以て端なくも神經過敏なる當局者の忌憚に觸れて彼も亦所謂注意人物の一人として數へらるゝに至りしなりと謂ふ。

社會主義は私有財產自由契約の二者を基礎として組織せられたる吾が社會制度より生ぜる當然の產物なり。福澤先生常に曰く、吾國にも早晚社會主義の發生を見るに至らんと。

果然吾國にも社會主義を標榜して立つ二三氏を出せり、而して之れに附和雷同する數十名の男女を見るに至れり。然れども彼等が自家の標榜し絕叫する社會主義に對して如何なる研究をなし、如何なる信念を有するやは頗る疑問なり。Sienkiewicz の描ける兇漢 Chilo は自ら稱して、我れは必要上已むなくストア學者たるものなり、我がストア主義を環らすに薔薇の花環を以てし、傍に置くに一瓶の美酒を以てせば、余は總てのエピキユリアス派をして聾せしむ程の高調子にてアナクレオンの歌謠を唄ふ可しと、我國の社會主義者と稱ふるものにして其腹と財布の滿ちたる時資本制度の美を謳歌せざるもの幾何かある。

社會主義は現今社會制度の缺陷より生ぜる必至